

注目種								
<p style="text-align: center; font-weight: bold;">シャジクモ</p> <p><i>Chara braunii</i> Gmelin</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006		1995	環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類
神奈川県	2006							
	1995							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅱ類						
<p>【判定理由】 県内では過去に複数回の記録があり、今回の評価・選定期間中にも多く確認された。ただし、本種は環境省レッドリストにおいて絶滅危惧Ⅱ類に指定されているため、国内的に保護を要する種である。現在の生育地における今後の生育状況に注目していく必要がある。</p> <p>【生育環境・生態】 主に湖沼、ため池、水田に生育する。</p> <p>【現状】 芦ノ湖や県内の複数地点(水田やため池)において生育している。</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 芦ノ湖、小田原市、川崎市、海老名市、横浜市、相模原市</p> <p>【存続を脅かす要因】 池沼開発、湿地開発、水田の畑地化、水質汚濁、農薬汚染、管理放棄</p> <p>【特記事項】 産地の保護状況として国立公園指定が挙げられる。</p> <p>📷写真あり: 口絵8</p>						

絶滅危惧Ⅰ類								
<p style="text-align: center; font-weight: bold;">カタシャジクモ</p> <p><i>Chara globularis</i> Thuill. var. <i>globularis</i></p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅰ類</td> </tr> </table>	神奈川県	2006		1995	環境省	2020	絶滅危惧Ⅰ類
神奈川県	2006							
	1995							
環境省	2020	絶滅危惧Ⅰ類						
<p>【判定理由】 県内では芦ノ湖で複数回の記録があるが、分布域が縮小している様子が認められる。芦ノ湖における車軸藻類の全体的な減少傾向と外来種(コカナダモ)の分布状況、環境省レッドリストにおける本種の指定状況を考慮し、「絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)」と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 湖沼、ため池に生育する。</p> <p>【現状】 分布域が縮小している。</p>		<p>【国内分布】 北海道、本州、四国、九州</p> <p>【県内分布】 芦ノ湖、横浜</p> <p>【存続を脅かす要因】 池沼開発、水質汚濁</p> <p>【特記事項】 産地の保護状況として国立公園指定が挙げられる。</p> <p>📷写真あり: 口絵8</p>						

絶滅								
<p style="text-align: center; font-weight: bold;">ハコネシャジクモ</p> <p><i>Chara globularis</i> Thuill. var. <i>hakonensis</i> Kasaki</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅</td> </tr> </table>	神奈川県	2006		1995	環境省	2020	絶滅
神奈川県	2006							
	1995							
環境省	2020	絶滅						
<p>【判定理由】 既産地(芦ノ湖)では車軸藻類に関する信頼性の高い現地調査が報告されているにもかかわらず、長期間全く記録がなく、2019年に行った再調査でも確認されなかった。これらの理由より「絶滅(EX)」と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 湖沼に生育する。</p> <p>【現状】 絶滅したと考えられ、栽培株も存在しない。</p>		<p>【国内分布】 神奈川県</p> <p>【県内分布】 芦ノ湖</p> <p>【存続を脅かす要因】 池沼開発、水質汚濁</p> <p>【特記事項】 神奈川県固有種。芦ノ湖がタイプ産地。産地の保護状況として国立公園指定が挙げられる。</p>						

絶滅危惧 I 類								
<p>ヒメフラスコモ</p> <p><i>Nitella flexilis</i> (L.) Agardh var. <i>flexilis</i></p> <p>【判定理由】 県内では芦ノ湖で複数回の記録があるが、分布域が縮小している様子が認められる。芦ノ湖における車軸藻類の全体的な減少傾向と外来種(コカナダモ)の分布状況、環境省レッドリストにおける本種の指定状況を考慮し、「絶滅危惧 I 類(CR+EN)」と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 湖沼、ため池に生育する。</p> <p>【現状】 分布域が縮小している。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I 類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 沖縄県を除く各地</p> <p>【県内分布】 芦ノ湖</p> <p>【存続を脅かす要因】 池沼開発、水質汚濁</p> <p>【特記事項】 産地の保護状況として国立公園指定が挙げられる。</p> <p>☑写真あり: 口絵8</p>	神奈川県	2006		1995	環境省	2020	絶滅危惧 I 類
神奈川県	2006							
	1995							
環境省	2020	絶滅危惧 I 類						

絶滅危惧 I 類								
<p>カワモズクフラスコモ</p> <p><i>Nitella batrachosperma</i> A.Braun</p> <p>【判定理由】 既産地(芦ノ湖)で長期間全く記録がなく、今回の評価・選定期間中に行った再調査でも確認されなかった。ただし、湖内における過去の記録は限られた地点のみであるため、残存している可能性も考えられる。したがって、「絶滅危惧 I 類(CR+EN)」と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 湖沼に生育する。</p> <p>【現状】 分布域が縮小、もしくは消滅している可能性がある。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I 類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 神奈川県</p> <p>【県内分布】 芦ノ湖</p> <p>【存続を脅かす要因】 池沼開発、水質汚濁</p> <p>【特記事項】 産地の保護状況として国立公園指定が挙げられる。</p>	神奈川県	2006		1995	環境省	2020	絶滅危惧 I 類
神奈川県	2006							
	1995							
環境省	2020	絶滅危惧 I 類						

絶滅危惧 I 類								
<p>オオバホンフサフラスコモ</p> <p><i>Nitella pseudoflabellata</i> A.Braun f. <i>macrophylla</i> Kasaki</p> <p>【判定理由】 既産地(芦ノ湖)で長期間全く記録がなく、今回の評価・選定期間中に行った再調査でも確認されなかった。ただし、湖内における過去の記録は限られた地点のみであるため、残存している可能性も考えられる。したがって、「絶滅危惧 I 類(CR+EN)」と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 湖沼に生育する。</p> <p>【現状】 分布域が縮小、もしくは消滅している可能性がある。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">神奈川県</td> <td style="text-align: center;">2006</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1995</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">環境省</td> <td style="text-align: center;">2020</td> <td style="text-align: center;">絶滅危惧 I 類</td> </tr> </table> <p>【国内分布】 神奈川県、鹿児島県</p> <p>【県内分布】 芦ノ湖</p> <p>【存続を脅かす要因】 池沼開発、水質汚濁</p> <p>【特記事項】 日本固有種。産地の保護状況として国立公園指定が挙げられる。</p>	神奈川県	2006		1995	環境省	2020	絶滅危惧 I 類
神奈川県	2006							
	1995							
環境省	2020	絶滅危惧 I 類						

絶滅危惧 I 類

キヌフラスコモ

Nitella gracilens Morioka

神奈川県	2006	
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧 I 類

【判定理由】

県内では芦ノ湖で複数回の記録があるが、分布域が縮小している様子が認められる。芦ノ湖における車軸藻類の全体的な減少傾向と外来種(コカナダモ)の分布状況、環境省レッドリストにおける本種の指定状況を考慮し、「絶滅危惧 I 類(CR+EN)」と判定した。

【生育環境・生態】

湖沼、ため池に生育する。

【現状】

分布域が縮小している。

【国内分布】

本州、四国、九州

【県内分布】

芦ノ湖

【存続を脅かす要因】

池沼開発、水質汚濁

【特記事項】

芦ノ湖がタイプ産地。産地の保護状況として国立公園指定が挙げられる。

絶滅危惧 I 類

オトメフラスコモ

Nitella hyalina (DC.) C.Agardh

神奈川県	2006	
	1995	
環境省	2020	絶滅危惧 I 類

【判定理由】

県内では芦ノ湖で複数回の記録があるが、今回の評価・選定期間中の調査では確認されず、分布域が大きく縮小している可能性が認められる。芦ノ湖における車軸藻類の全体的な減少傾向と外来種(コカナダモ)の分布状況、環境省レッドリストにおける本種の指定状況を考慮し、「絶滅危惧 I 類(CR+EN)」と判定した。

【生育環境・生態】

湖沼、ため池に生育する。

【現状】

分布域が縮小している。

【国内分布】

本州、九州

【県内分布】

芦ノ湖

【存続を脅かす要因】

池沼開発、水質汚濁

【特記事項】

産地の保護状況として国立公園指定が挙げられる。

情報不足

レンリフラスコモ

Nitella sublucens Allen

神奈川県	2006	
	1995	
環境省	2020	—

【判定理由】

県内で過去に報告された1地域の環境及び生育の現状は不明である。本種は、ため池や水路に生育することが報告されているため、当時の生育環境が現在まで維持されている可能性は高くないと考えられる。カテゴリーを判定するに足る情報を引き続き得ていく必要があり、「情報不足(DD)」として掲載した。

【生育環境・生態】

ため池に生育する。

【現状】

不明

【国内分布】

本州、四国、九州

【県内分布】

Sagami, Kozu (Allen, 1895)

【存続を脅かす要因】

不明

【特記事項】

神奈川県がタイプ産地。Allen (1895)が標本を採集した、Sagami, Kozuという産地は、現在の小田原市国府津と思われる。

絶滅			
ホシツリモ		神奈川県	2006
			1995
<i>Nitellopsis obtusa</i> (Desv.) J.Groves		環境省	2020 絶滅危惧 I 類
<p>【判定理由】 既産地(芦ノ湖)では車軸藻類に関する信頼性の高い現地調査が報告されているにも関わらず、長期間全く記録がなく、2019年に行った再調査でも確認されなかった。これらの理由より「絶滅(EX)」と判定した。</p> <p>【生育環境・生態】 湖沼に生育する。</p> <p>【現状】 絶滅したと考えられ、神奈川県産の栽培株も存在しない。</p>		<p>【国内分布】 本州</p> <p>【県内分布】 芦ノ湖</p> <p>【存続を脅かす要因】 池沼開発、水質汚濁</p> <p>【特記事項】 国内では芦ノ湖で1955年に初めて発見された種である。</p> <p>〈📷写真あり: 口絵8〉</p>	

藻類